ふうしゃだより

WINDMILL LETTER

2023. 3月号

皆様こんにちは。日本風力エネルギー（株）です。

3月に入り、5月中旬並みの陽気を記録したりと、温かい日が続きました。
「春よ来い、早く来い♪」やはり春の訪れは特別な思いがありますね。
さて、「ふうしゃだより3月号」は、以下の内容をお届けします。

注目 CONTENTS

- 鳥取大学 社会システム土木系学科 河野 勝宣先生インタビュー「だれでも同じように『客観的』に評価できる手法を開発し、経験や主観だけではない斜面崩壊の危険度評価を可能に」
- 写真スポットや観光地になっている「風力発電所」

弊社が計画しております「（仮称）鳥取風力発電事業」は計画段階であり、風車の位置などは地域住民や専門家のご意見を頂きながら、進めてまいります。説明会や話し合いの機会を頂戴できますと幸甚です。環境影響評価方法書への知事意見として、「住民等一人一人にきちんと情報が届くように丁寧に説明をおこなうこと」が求められました。「ふうしゃだより」が情報提供の一端を担えるよう尽力してまいります。

お問い合わせ

日本風力エネルギー株式会社 鳥取事業所（鳥取風力合同会社）
〒680-0404 鳥取県八頭郡八頭町見槻中154-2 隼LAB 2-A
TEL. 0858-76-0700 FAX. 0858-76-0701

VENA ENERGY

（仮称）**鳥取風力発電事業** 専用サイト：https://project.venaenergy.co.jp/tottori/

写真スポットや
観光地となっている

風力発電所

**地域の自然資源である“風”を活用し、二酸化炭素を排出しないクリーンなエネルギーを家庭や事業所へ供給できることは風力発電所のメリットの一つと言えます。
また、風車が並ぶ景色と豊かな自然や一面に咲く色とりどりの花畑は、多くの人が訪れる観光スポットになっています。
今回は、観光地となっている風力発電所をご紹介します。**

また、弊社の風力発電所もご紹介させて頂きます。

TOKUSHIMA

徳島県佐那河内村

標高 900m～950m の大川原高原（おおかわらこうげん）には、15 基の風力発電機が並んできます。近くには大川原放牧場や「森林浴の森 100 選」に選ばれた大川原生活環境保全林などもおり、ハイキングエリアとして親しまれています。
特産物販売所や風力発電所資料館も建てられています。

受賞作品ではありません。

熊本県苓北町

弊社、日本風力エネルギーの「苓北風力発電所」は 3 基の風力発電機が稼働しています。天気が良い日は、島原半島が一望できます。

受賞作品ではありません。

青森県中泊町

弊社、日本風力エネルギーの「中里風力発電所」は 13 基の風力発電機が山間に並んでいます。のどかな田園風景の中、風車が風を受けて回っています。

FUKUSHIMA

福島県郡山市

猪苗代湖の南に位置する標高 1,000m超の布引高原 (ぬのびきこうげん) に 33 基の風力発電機が並んでいます。春は菜の花、夏はひまわり、秋はコスモスが楽しめます。
また、猪苗代湖や磐梯山が一望できることから観光スポットになっています。

長崎県平戸市

風力発電所と周囲に広がる田んぼの原風景とのコントラストが写真スポットとして有名です。
離島における発電所としては最大規模で、16 基の風力発電機が並んでいます。

NAGASAKI

HYOGO

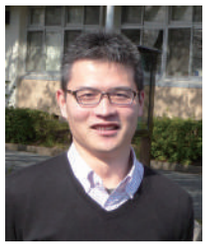
兵庫県南あわじ市

瀬戸内海の景色を一望できる風力発電所には、15 基の発電機が並んでいます。
数年前、人気歌手氷川きよしさんが旅番組で訪れ、美しい夕日に感動されていました。

写真提供：JWPA（日本風力発電協会）が主催する「フォトコンテスト」受賞作品

話題のインタビュー

今回のインタビュー



鳥取大学工学部
社会システム土木系学科　准教授
河野　勝宣先生
（こうの　まさのり）

実験・分析、野外調査を駆使して地表面から大深度地下を対象とした研究がご専門。

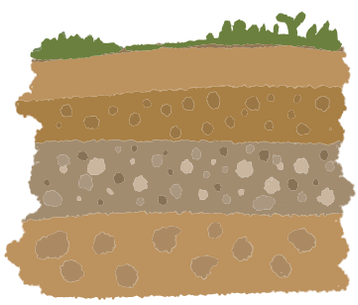
だれでも同じように
「客観的」に評価できる手法を開発し、経験や主観だけではない
斜面崩壊の危険度評価を可能に

Q 「地すべり / 斜面崩壊ハザードアセスメントに関する研究」が、鳥取大学工学部優秀教職員表彰「未来の工学賞」を受賞されました。研究を始められたきっかけを教えてください。

A　地すべりや斜面崩壊などの危険度評価において、技術者や研究者の長年の経験的判断や主観的判断が評価に反映されることがまだまだ多い状況があります。乱暴な言い方ですが、経験豊かな熟練の技術者・研究者が「あそこの斜面は危険だ」と言えば、それが独り歩きしてしまうことも起りえてしまいます。

しかし、私も含め、経験をこれから積んでいくような若い技術者や研究者は、そのような経験的判断ができるような域に到達するまでは、長年の経験を積む必要があります。さらに、経験を積んだとしても、「客観的」に評価することは難しいとも言えます。

そこで、だれでも同じように客観的に評価できる手法を作りたいと思ったのがきっかけです。



Q 河野先生が作られた手法について、簡単に教えてください。

A　計画学などで採用されていAHP法を取り入れています。AHP法については詳しくは説明しませんが、今回の手法においては、だれでも入手できるデータ、例えば、地形データ（国土地理院）、地質データ（産総研）、植生データ（環境省）など複数の評価項目を得点化しGISというソフトを用いて重ね合わせることで、地すべり／斜面崩壊の危険度を評価しています。

複数のデータを点数化していく時に、できるだけ客観的に点数化できるように、例えば、過去に発生した地すべりとの関係性などを考慮し、この地形ならば何点、この地質ならば何点という形で点数化していきました。

また、今回の手法ではデータさえ入手できれば、例えば、中国地方全域や日本列島全域といった非常に広範囲の地すべり／斜面崩壊の危険度を一挙に客観的に評価できてしまうという点も特色のひとつになります。

Q 今後の計画や展望について教えてください。

A　現在は、地すべり／斜面崩壊の危険度を評価する手法を論文として公開しており、実際に「この斜面は地すべり危険度が高い／低い」といったハザードマップのようなものは公開していません（地価にも関わってきますし、非常に慎重になる必要があります）。

2018年には北海道胆振東部地震が発生し、大規模な斜面崩壊が発生しました。実際に発生した斜面崩壊の分布と今回の手法における評価結果がどの程度一致するのかなどの研究も進めています。

近年、地震だけでなく豪雨などによる斜面崩壊も頻繁に起こっていますので、今後、この評価手法の適用範囲を広げられるように研究を進めていきたいと思っています。